一　次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。（読むこと　各二点　計二十二点）

それから、ぐうちゃんがまた僕の家に帰ってきたのは、九月の新学期が始まってしばらくしたころだった。顔と手足が真っ黒になっていて、パンツ一つになると、どうしても笑いたくなって困った。

残暑が厳しい日だった。久しぶりにぐうちゃんのほら話を聞きたいと思った。またからかわれてもいい。暑いから、今度は寒い国の話が聞きたい感じだ。

ところが、①ぐうちゃんの話は、でっかい動物のでも、暑い国のでも、寒い国の話でもなかった。

「旅費がたまったから、これからまた外国をふらふらしてくるよ。」

ぐうちゃんは突然そう言った。「でもまあもう少し。」にはこんな意味があったのか。ぐうちゃんはいつもと変わらずに話を続けている。それなのに、②ぐうちゃんの声はどんどん遠くなっていく。気がつくと、僕はぶっきらぼうに言っていた。

③「勝手に行けばいいじゃないか。」

ぐうちゃんは、そのときちょっと驚いた表情をした。何かを話しかけようとするぐうちゃんを残して僕は部屋を出た。

それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。母は、そんな僕たちに、あきれたり慌てたりしていたけれど、父はなにも言わなかった。

十月の初めに、ぐうちゃんは小さな旅支度をして「いそうろう」を卒業してしまった。

出発の日、僕は、なんて言っていいのかわからないままぐうちゃんの前に立っていた。ぐうちゃんは僕に近づき、あの表情で笑った。そして、なにも言わずに僕の手を握りしめ、力のこもった強い握手をして、大股で僕の家を出ていった。

「ほらばっかりだったじゃないか。」

「【　Ⅳ　】」がいなくなってしまった部屋の前で、僕はそう思った。

ぐうちゃんから外国のちょっとしゃれた封筒で僕に手紙が届いたのは、それから四か月ぐらいたってからだった。珍しい切手がいっぱいはってあった。

「あのときの話の続きだ。以前若いころに、北極まで行ってイヌイットと暮らしていたことがあるんだ。そのとき、アイスプラネットを見に行こう、と友達になったイヌイットに言われてカヌーで北極海に出た。アイスプラネット。わかるだろう。氷の惑星だ。それが北極海に本当に浮かんでいたんだ。きれいだったよ。厳しい自然に生きている人だけが目にできる、もう一つの宇宙なんだな、と思ったよ。地上十階建てのビルぐらいの高さなんだ。そして、海の中の氷は、もっともっとでっかい。悠君にもいつか見てほしい。若いうちに勉強をたくさんして、いっぱい本を読んで、いっぱいの『不思議アタマ』になって世界に出かけていくとおもしろいぞ。世界は、楽しいこと、悲しいこと、美しいことで満ち満ちている。誰もが一生懸命生きている。④それこそありえないほどだ。それを自分の目で確かめてほしいんだ。」

手紙には、ぐうちゃんの力強い文字がぎっしりつまっていた。

そして、封筒からは写真が二枚出てきた。一枚は人間の倍ぐらいあるでっかいナマズの写真。もう一枚は、北極の海に浮かぶ、見た者を幸せにするという氷の惑星の写真だった。

（椎名誠（しいなまこと）『アイスプラネット』）

問一　――線部①について、次の（1）（2）に答えなさい。

（1）このとき、「僕」は「ぐうちゃん」からどのような話が聞きたかったのですか。最も適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア　顔と手足が真っ黒になるほど働いた仕事の話
イ　暑い国と寒い国を比較した、ためになる話
ウ　ほら話とも思えるような、不思議で楽しい話
エ　「ぐうちゃん」がときどき「僕」の家を出ていく理由

（2）　（1）の話を聞きたいという「僕」の気持ちがとても強かったことが最もよくわかる一文を文中から抜き出し、そのはじめの五字を答えなさい。

問二　――線部②について、次の（1）（2）に答えなさい。

（1）「遠くなっていく」とは、ここではどのような意味か。（　　）に入る言葉を【語群】から選びなさい。

ぐうちゃんの声が（ア）に（イ）なり（ウ）なっていくという意味。

【語群】

入らなく　小さく　聞こえるように　聞こえなく　耳

一気　うっとうしく　騒々しく

（2）この文から読み取れる「僕」の気持ちとして、あてはまらないものを一つ選び記号でなさい。

ア　もうほら話は聞けなくなる。おもしろい話をもっとたくさん聞きたかった、と悔やむ気持ち。

イ　「いそうろう」を卒業することを勝手に決めるなんて。ぐうちゃんに裏切られたという気持ち。

ウ　ぐうちゃんが行きたいというなら仕方がない。僕には止められないから応援しようという気持ち。

エ　旅に出る話なんて聞きたくない。ぐうちゃんがいなくなるなんて、信じられないという気持ち。

問三　――線部③について、この言葉を言った時の「僕」の気持ちとして適切なものを二つ選び、記号で答えなさい。（完全解答）

ア　ほっとする気持ち　イ　祝福する気持ち　ウ　寂しい気持ち

エ　照れくさい気持ち　オ　裏切られた気持ち

問四　【　　Ⅳ　　】にはそれまでの「ぐうちゃん」の立場を表す言葉が入ります。【　　Ⅳ　　】に入る言葉を文中から五字で書き抜きなさい。

問五　――線部④「それ」が指しているひと続きの二文を文中から探し、その初めと終わりの四字を書き抜きなさい。

問六　「ぐうちゃん」の手紙からは「僕」に対するどのような気持ちが読み取れるか。適切なもの一つ選び、記号で答えなさい。

ア　仲直りをしないまま旅に出たことを申し訳なく思う気持ち

イ　自分の話を信じなかった「僕」をとがめる気持ち

ウ　広い世界をまだ知らない「僕」をかわいそうだと思う気持ち

エ　「僕」の事を大切に思い、心から将来を応援する気持ち

問七　「ぐうちゃん」は、どんな状態で世界に出かけていくとおもしろいと考えているか。文中から六字で抜き出しなさい。

二　次の詩を読み、あとの問いに答えなさい。（読むこと　各二点　計十点）

見えないだけ　　牟礼慶子

空の上には
もっと青い空が浮かんでいる
①海の底には
もっと大きな海が眠っている
胸の奥で
ことばがはぐくんでいる優しい世界
次の垣根で
蕾をさし出している美しい季節
②少し待ち遠しくて
待ちかねている新しい友だち
あんなに確かに在るものが
まだここからは見えないだけ

問一　この詩の用語・形式上の種類を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　文語定型詩　　イ　文語自由詩
ウ　口語定型詩　　エ　口語自由詩

問二　傍線部①「海の底には……眠っている」と対になっている表現を探し、算用数字で答えなさい。

【　　】行目から【　　】行目

問三　第一連から体言止めが用いられている行を三つ探し、算用数字で答えなさい。

【　　】行目と【　　】行目と【　　】行目

問四　傍線部②「少し遠くで／待ちかねている」が表現していることとして最も適切なものを次から一つ選び記号で答えなさい。

ア　どこか遠い場所で出会う時を待っているということ。
イ　遠くない将来に出会うことを期待しているということ。
ウ　今いる所から少し離れた場所で待機しているということ。
エ　いつになったら会えるのかと気をもんでいるということ。

問五　この詩に込められた作者の思いとして最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　世の中には自分の力だけでは見られないものが色々とあるので、さまざまな出会いを大切にしてほしい。
イ　世の中には肉眼で見られないものもあるが、そんなものの中にこそ大切なものがあると気づいてほしい。
ウ　世の中には時間をかけないと分からないこともあるので、今うまくいかなくても落ち込まないでほしい。
エ　世の中には素晴らしいものがたくさんあるので、それに気づいて感動できる人間になってほしい。

三　次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。（読むこと　各二点　計三十四点）

枕草子

春はあけぼの。Aやうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲aのほそくたなびきたる。夏は夜。月bのころはさらなり、B闇もなほ、蛍の多く①飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、烏の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへCあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風cの音、虫dの音など、はた②言ふべきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜③のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭もて渡るもいと④つきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりて⑤わろし。（第一段）

問一　枕草子について説明した次の文章について、（　　）に当てはまる語句を漢字で答えなさい。

『枕草子』は（　①　）時代中期、一条天皇の中宮定子につかえた女房、（　②　）によって書かれた（　③　）である。

問二　――線部A～Cの読みを現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

問三　「夏は夜」の段について、次の問いに答えなさい。

（1）趣があるものとして、どんな夜が挙げられているか。次の（　　）に入る言葉を文中から一字で書き抜きなさい。

①（　　）が出ている夜

②（　　）がたくさん、あるいは一、二匹飛んでいる闇夜

③（　　）が降っている夜

問四　――線部①「飛びちがひたる」のあとに省略されている言葉を本文中から四字で書き抜きなさい。

問五　――線部②「言うべきにもあらず」とは「言いようもない」という意味ですが、言いようもないほどどうだというのですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　かすかである　イ　心細い　ウ　にぎやかである　エ　趣がある

問六　「冬はつとめて」の段落について、次の（1）～（3）に答えなさい。

（1）――線部③「の」と同じ意味・用法で使われているものを文中‖線部a～dから一つ選び、記号で答えなさい。

（2）――線部④「つきづきし」とありますが、何が何に似つかわしいのですか。次の（　　）に入る言葉を書きなさい。

（①は漢字一字　②は季節を表す漢字一字　③は時間帯を表す漢字二字）

（　①　）をもって運ぶ様子が、寒い（　②　）の（　　③　　）に似つかわしい。

（3）――線部⑤「わろし」とありますが、どんなことが好ましくないのですか。次の（　　）に入る言葉を漢字一字で答えなさい。

（　①　）になって寒さが緩むと、火桶には（　②　）色の灰ばかりになっていること。

KOMABA　二学年総合考査Ⅰ模擬テスト　国語模範解答

一

問一		問二			問三	問四	問五	問六	問七
(1)	(2)	(1)	ウ	ア					
				イ			～		

二

問一	問二	問三	問四	問五
	行目から	行目と		
	行目	行目と		
		行目		

三

問一	問二	問三	問四	問五	問六		
①	A	①			(1)	(2)	(3)
						①	①
②	B	②		②		②	②
③	C	③				③	